

## 茨城県における最近のカレイ類の資源状況

茨城県の底曳き網漁業で漁獲されるカレイ類の水揚げ量は、底曳き網漁業全体の10～15%程度を占めています。今回はカレイ類の資源状況について、最近の状況をお知らせします。

### 1. カレイ類の漁獲量は増加傾向

県内底曳き網で漁獲されるカレイ類の漁獲量は250トン前後で推移していましたが、平成22年頃から一時減少し、ここ2、3年で再び増えてきています。

漁獲される魚種を5年ごとに集計し、主な魚種の割合を図2に示しました。平成14～18年、19～23年はアカガレイ、マコガレイが多く漁獲され全体の50%以上を占めていましたが、24年以降大きく減少しました。一方、平成24年以降、ヤナギムシガレイ、ムシガレイの割合が大きく増加しました。この2種の増加がカレイ類全体の漁獲量の増加につながっています。

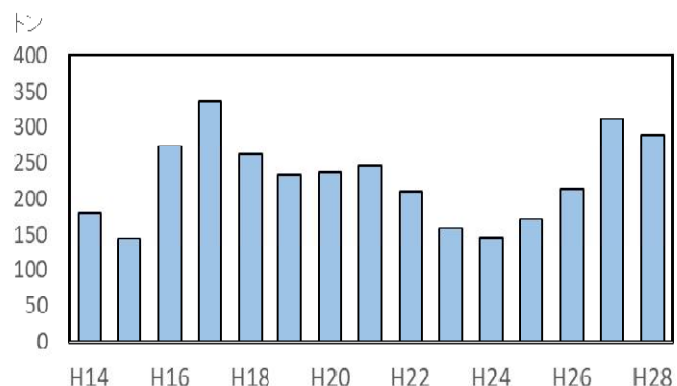


図1 茨城県底曳き網で漁獲されるカレイ類の漁獲量 漁期年

### 2. ヤナギムシガレイ、ムシガレイの漁獲量が急増

図3に漁獲量の増加が目立つ2魚種の漁獲量を示しました。ヤナギムシガレイは20～40トンであったものが平成26年から増加し、27年には100トンを超えました。東北太平洋側全体で、平成25年、27年に生まれの生き残りが良く、資源水準は高く、増加傾向にあると評価されています(平成29年度我が国周辺水域の漁業資源評価：水産庁・水産研究教育機構)。

またムシガレイは平成24年から徐々に漁獲量が増加し、28年には98トンと平成年代で最高の漁獲量となりました。水産試験場の調査船いばらき丸で行っている調査でも多く漁獲され、増加傾向となっています。

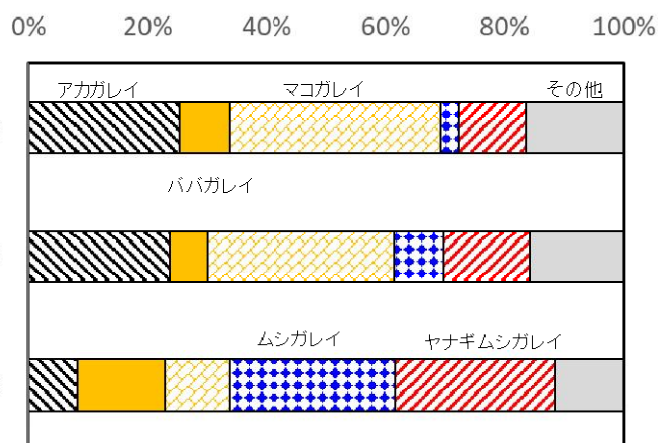


図2 主なカレイ類の漁獲割合

両魚種とも現在も底曳き網での水揚げ量は多く、今後しばらくは良好な水揚げが続くと考えられます。

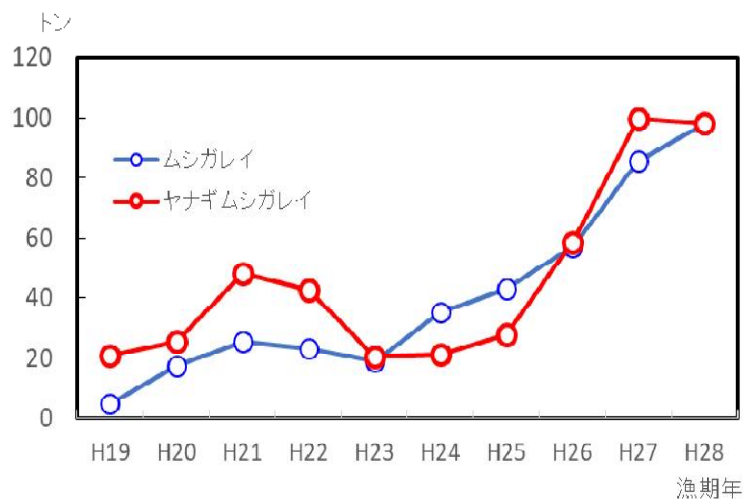


図3 増えているカレイ類の漁獲量の推移



ヤナギムシガレイ



ムシガレイ

(水産試験場 定着性資源部)

次号予告：平成30年5月8日発行の水産の窓は「船曳網の漁況経過と春シラス漁の見通し」を予定しています。